

平成 30 年度野々市市創生総合戦略推進会議 会議録（要約）

日 時

平成 30 年 11 月 27 日（火） 10 時～12 時

場 所

庁舎 2 階 201 会議室

次 第

1 開 会

2 委嘱状交付

3 報 告

（1）ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について

4 議 事

（1）地方創生関連交付金等（平成 29 年度）の効果検証について

5 委員からのご意見等

6 閉 会

出席委員

石川 憲一 会長

三沢 典彦 副会長

岩田 稔弘 委員

鴨宮 隆史 委員

絹川 博 委員

澤村 昭子 委員

千田 利明 委員

杖村 修司 委員（代理出席 杉本 陽一氏）

西村 一正 委員

藤田 雅顯 委員

米澤 昭雄 委員

欠席委員

飯田 秀昭 委員

<p>司会 (開会)</p>	<p>定刻となりましたので、ただ今より、平成 30 年度野々市市創生総合戦略推進会議を開催いたします。</p> <p>皆様方には、大変御多用のところ御出席いただきまして、誠にありがとうございます。</p> <p>私は、本日の司会進行を担当させていただきます、企画課長の荒木でございます。よろしくお願いいたします。</p> <p>はじめに、本日の会議ですが、現在 11 人の委員（代理出席 1 人）が出席でございます。従いまして、野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、委員 12 名のうち半数以上の出席がありますので、会議が成立しておりますことを御報告申し上げます。</p> <p>次に、開会にあたりまして、皆様方をお願いがございます。</p> <p>この推進会議は、開催状況を市のホームページ等で公表しております。会議録を作成するため、御発言の際には、マイクを利用いただきたく、また本日の会議の内容を録音させていただいておりますので、お願いいたします。</p>
<p>司会 (資料の確認)</p>	<p>続いて、本日の会議資料を確認させていただきます。</p> <p>一つ目は、資料番号 1 番、「ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について」でございます。こちらは A 3 全 5 枚の資料となっております。</p> <p>二つ目は、資料番号 2 番、「地方創生関連交付金等（平成 29 年度）の効果検証について」でございます。こちらは資料 2－1 から資料 2－4 までの A 3 全 4 枚の資料となっております。</p> <p>また、推進会議の委員様の名簿をお手元に置いてございます。</p> <p>皆様、よろしいでしょうか。</p>
<p>司会 (委嘱状の交付)</p>	<p>それでは、委嘱状の交付に移らせていただきます。</p> <p>今回の会議から、御所属の機関の人事異動等によりまして、新しく 2 名の方に御参加をいただいております。</p> <p>市長が席にお伺いし、委嘱状をお渡しいたします。順にお名前をお呼びしますので、恐縮でございますが、その場でご起立いただき、委嘱状をお受け取りいただきたいと思います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株式会社 北國新聞社 白山支社長 岩田 稔弘 様でございます。 ・石川労働局 白山公共職業安定所長 米澤 昭雄 様でございます。

<p>司会 (市長あいさつ)</p>	<p>ありがとうございます。 続きまして、野々市市長 栗 貴章より、委員の皆様に御挨拶を申し上げます。</p>
<p>市長</p>	<p>皆様、おはようございます。本日は、御多用のところ野々市市創生総合戦略推進会議に御出席いただき、誠にありがとうございます。</p> <p>皆様には、日頃から、この会議のみならず各方面にわたり、本市のまちづくりに御協力、御尽力をいただいておりますことに、厚く御礼を申し上げます。また、この度、新しく委員に就任されました方々につきましては、この創生総合戦略推進会議委員への就任を、快くお引き受けいただきましたことに重ねてお礼を申し上げます。本日の会議では「ののいち創生総合戦略」の進捗状況等につきまして、その取り組み状況や実績について、皆様からの評価を頂きたいと思っております。</p> <p>さて、皆様のお力添えにより進めてまいりました「ののいち創生総合戦略」でございますが、推進期間を2020年3月末までとしております。次年度が最終年度となりますことから、これまでの結び、集大成といたしまして、全庁一丸となって、取り組みを加速させてまいりたいと考えております。</p> <p>昨今の本市の創生に向けた大きな取り組みを紹介いたしますと、昨年開館いたしました「学びの杜ののいち カレード」、また来年4月に開館の予定をしております新中央公民館等の複合施設である「にぎわいの里ののいち カミーノ」の整備が完了する予定でございます。多くの方々に、これらの拠点施設へ足をお運びいただくことで、「ひと」の流れがにぎわいとなり、ひいては、新たな「しごと」を生み出すような、市民の皆様が輝き、活躍する場所として整備した拠点が、いよいよ完成いたします。</p> <p>まさに市民の皆様の活躍を通じ、「ひと」と「しごと」の好循環によって、多くの皆様にとって、この総合戦略の目標として掲げてございます「選ばれるまち」へと発展させてまいりたいと思っております。</p> <p>委員の皆様には、野々市市の創生に対しまして、各方面からの御意見をいただき、本市の創生に向けた様々なアイデアをいただきますよう、お願いを申し上げます。開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。</p>

<p>司会 (荒木企画課長)</p>	<p>ありがとうございます。 続いて、本会議の会長でございます金沢工業大学 名誉学長の石川 憲一会長より、御挨拶をお願いしたいと思います。 よろしく願いいたします。</p>
<p>石川会長 (会長あいさつ)</p>	<p>おはようございます。 ただ今御紹介いただきました金沢工業大学の石川でございます。一言御挨拶をさせていただきます。これまでに引き続き、野々市市創生総合戦略推進会議の会長を務めさせていただきます。委員の皆様方の御協力をいただきながら、会議を進めてまいりたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。 この会議の委員の皆様は、野々市市における「産学官民金労言」の各分野の代表として選出された方々でございます。それぞれの御立場から、地方創生に関わる取り組みにつきまして、積極的な御意見をいただきたいと思っております。 今回の会議は「ののいち創生総合戦略」の推進状況について、先ほど市長からもお話がありましたが、実績値や取り組み状況に関する評価について皆様と共に議論してまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしく願いいたします。 さて、私ども金沢工業大学の取り組みについて、一つ紹介したいと思います。昨年の12月に日本で大学として初めて、SDGs推進副本部長（内閣官房長官）賞をいただくことができました。大変責任の重大さを感じております。SDGsを推進するために「SDGs推進センター」を設けて、取り組みを進めております。SDGsは、「誰一人取り残さない」を大きな目標に、国連の加盟国193か国が17の目標をたてて、それら一つずつ着実に推進していく壮大な計画でございます。 そのため本学では学部や学科を超えて、全学体制でSDGsを推進しているところであります。教職員が研究を進めるだけでなく、次世代を担う学生らが自ら課題を考えながら、解決方法を生み出しております。その一環として本学では、プロジェクトデザイン教育を実施してまいり</p>

<p>司会 (市長退席)</p>	<p>ました。野々市市の御担当者の方々と本学の学生が意見交換をしながら解決方法を考え出す教育を進めています。これは本学の教育の背骨にあたりますので、今後も推進していきたいと考えています。</p> <p>これからも「学」の立場から、色々と取り組みをさせていただきますので、御指導、御鞭撻を賜りたいと思っております。</p> <p>この会議が、野々市市の創生に向けた積極的な意見が交わされる場となるよう、委員の皆様から忌憚のない御意見を賜りたいと思います。</p> <p>以上、簡単ではございますが、開催にあたっての御挨拶とさせていただきます。</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>市長は、次の公務がございますので、ここで退席をさせていただきます。</p> <p style="text-align: center;">(市長 退席)</p>
<p>司会 (委員の御紹介)</p>	<p>それでは、ここで改めまして、委員の皆様の御紹介をさせていただきます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・会議の会長をお願いしております 金沢工業大学 名誉学長の石川 憲一会長でございます。 ・会議の副会長をお願いしております石川県立大学 産学官連携学術交流センター長の三沢 典彦副会長でございます。 ・野々市農業協同組合 常務理事の飯田 秀昭委員でございますが、本日御欠席の御連絡をいただいております。 ・株式会社 北國新聞社 白山支社長 岩田 稔弘委員でございます。 ・株式会社 中日新聞北陸本社 北陸中日新聞白山支局長の鴨宮 隆史委員でございます。 ・野々市市子ども・子育て会議 会長の絹川 博委員でございます。 ・野々市市女性協議会 会長の澤村 昭子委員でございます。 ・北陸信用金庫 野々市支店長の千田 利明委員でございます。 ・株式会社北國銀行 代表取締役専務の杖村 修司委員の代理といたしまして、本日は公務金融室 課長 杉本 陽一様に御出席いただいております。

<p>司会 (職員の紹介)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・野々市市商工会 副会長 西村 一正委員でございます。 ・野々市市連合町内会 会長 藤田 雅顯委員でございます。 ・石川労働局 白山公共職業安定所長 米澤 昭雄委員でございます。 <p>委員の皆様には、これからどうぞよろしくお願い申し上げます。 続きまして、職員の紹介をいたします。 副市長の常田でございます。 総務部長の山口でございます。 企画振興部長の越柴でございます。 健康福祉部長の小川でございます。 土木部長の内田でございます。 教育文化部長の大久保でございます。 企画課 課長補佐の宮前でございます。 企画課 企画係の北坂でございます。 企画課 企画係の久田でございます。 最後に、私、企画課長の荒木です。よろしくお願いいたします。 野々市市創生総合戦略推進会議設置要綱 第6条第1項の規定によりまして、会長が会議の議長となると定めておりますので、この後の報告及び議事進行につきましては、石川会長にお願いしたいと思います。 それでは、石川会長、よろしくお願いいたします。</p>
<p>会長</p>	<p>それでは、早速ではありますが、会議の進行に移ります。 報告1番の「ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について」事務局より御説明をお願いいたします。</p>
<p>事務局 (説明)</p>	<p>資料1をご覧ください。先ほど市長より委嘱状を交付させていただいたとおり、新たに野々市市創生総合戦略推進会議の委員になられた方もおられますので、「ののいち総合戦略」の概要の方から説明をさせていただきます。 国は人口減少と人口減少から引き起こる地域経済の縮小の克服のため、「まち・ひと・しごと創生総合戦略」を平成26年12月27日に閣議決定しました。この戦略を踏まえまして、市では、平成27年10月に創生に向けた中長期的な展望を示した「ののいち創生総合戦略」を策定いたしました。総合戦略の策定に先立ち、市の人口と産業構造の現状と将</p>

来の姿をできる限り正確に展望し、その方向性を示した「ののいち創生長期ビジョン」を平成 27 年 8 月に策定をしております。

基本方針は、「ののいち創生長期ビジョン」と各種調査分析結果を踏まえ、定めたものです。基本目標は、市の将来の姿を展望し、地域経済の拡大と持続可能な人口構造の維持を図るため、「選ばれる“まち”をめざして ～誇りと愛着を持つ、未来の「のゝ市人」のために～」と掲げております。この基本目標は、市民には当市に誇りと愛着を、市外の人からは憧れを感じてもらえるような施策を行うことにより「選ばれる“まち”」であろうとする、当市の強い意志を示すものであります。

基本戦略は、基本方針の考え方を受けて、また、基本目標を実現するための手段として、「しごとを創る ～野々市らしい産業の創出～」「ひとの流れを創る ～安心して暮らせる環境づくり～」「“まち”と“ひと”のつながりを創る ～地域・広域連携によるまちの基盤充実～」の 3 つを掲げております。

次に、各基本戦略の関係ではありますが、「しごとを創る」と「ひとの流れを創る」が連携することで、相乗効果が生まれ、更に「“まち”と“ひと”とのつながりを創る」が「しごと」と「ひと」から相乗効果を生み出すための下支えとなります。それぞれの強みを生かした連携を強化することにより、地域の課題の解決をめざすものであります。

続きまして、野々市創生総合戦略の推進状況についての説明に移ります。2 枚目になりますが、行政評価の手法を用いまして、ののいち創生総合戦略の推進状況の評価を行いました。詳細については後から説明いたしますが、まず始めに、戦略や施策の評価の評価方法について、2 ページの「4 平成 29 年度の推進状況」【基本戦略 1 しごとを創る】により説明させていただきます。

まず、一番上の欄の平成 29 年度の取り組み 18 件の評価を行いました。次に、これらの平成 29 年度の取り組みの総合結果を求めました。中ほど施策 1－1 の欄にございます「施策 1－1 に掲げる各事業の評価」と記載しているオレンジ色の「△やや遅れている」と記載の部分であります。

次に、施策 1－1 の重要業績評価指標（K P I）の評価を行いました。黄色の部分となります。オレンジ色の部分と黄色の評価部分から、施策 1－1 の総合評価を行っております。一番右の緑色の「△やや遅れている」と記載の部分であります。同様のことを施策 1－2 の方でも行いました。

一番下の基本戦略 1 の評価も同じ見方をいたしますが、重要業績評価指標（K P I）の評価を行った黄色の部分と「施策 1－1 の評価」「施策 1－2 の評価」の緑色の部分から、基本戦略 1 の総合評価を行っております。基本戦略 1 の一番右のピンク色の「△やや遅れている」と記載の部分であります。

このようにそれぞれ事業、施策そして基本戦略へと評価を積み上げて

総合評価を行っております。

【基本戦略1 しごとを創る】の平成29年度の主な取り組み

「起業や創業希望者への支援」であります。平成28年6月に、市内で創業支援を行っている各機関が情報やノウハウを集約しながら野々市市での創業を推進することを目的に、野々市市、野々市市商工会、日本政策金融公庫金沢支店、地域金融機関として地方銀行3行、信用金庫5庫からなる野々市市創業支援ネットワークを結成いたしました。そのネットワークの協力のもと、野々市市商工会の主催により、平成29年8月から9月にかけて創業塾を開催いたしました。創業塾は、全5日間の日程で、創業するために必要な経営、財務、人材育成、販路開拓の知識を学ぶことができ、21名の方が受講され、うち女性の方が6名受講されております。なお、創業塾を受けられた方は、会社設立時の登録免許税の軽減や創業関連保証の特例などといった、国の支援を受けることができます。また、若者に、自分らしい働き方の一つとして「創業」という選択肢があることや、先輩起業家の体験談を聞くことで、将来の創業に向けた意識を高めてもらうため、平成30年2月に市の主催による、若者向け創業セミナーを開催いたしました。13名の方が受講され、うち女性の方が5名、男子学生が3名受講されております。創業塾や若者向け創業セミナーを受講された方は、地域でのネットワークづくりや学生の起業家マインドの養成につながるものとなりました。

「産学連携スタートアップ事業」であります。市内の中小企業者が市内の大学等と連携して研究開発を行うために要する経費を補助する制度でございます。市内の大学に対し、この補助制度の説明を行い、利用促進を図ったところ、2件の産学連携支援につながっております。中小企業者が大学等を活用した取り組みによる新たな事業展開が生まれたことから、引き続き利用促進を図り、地域産業の強化につなげてまいります。

「いしかわ大学連携インキュベータ（i-BIRD）入居者への支援」であります。独立行政法人中小企業基盤整備機構が整備、運営をしている市内の起業家育成賃貸施設であります「いしかわ大学連携インキュベータ（i-BIRD）」の入居企業に対して市が賃料を補助しております。i-BIRDには、起業をめざす大学の研究者や大学と連携して研究開発を行う企業が入所するための試作ラボ、ウェットラボ、スモールオフィスがあります。中小企業基盤整備機構と連携して、入居事業者を増やし、i-BIRDに常駐するインキュベーションマネージャーからのビジネス支援を受け、市内における新規の起業や市内事業者の新規事業の展開を促進してまいります。

「野々市ブランド開発支援・認定制度」であります。野々市ブランドを認定する制度は現時点で整備はされておりましたが、新たな野々市

ブランドとなりうる商品開発を進めております。石川県立大学の研究において、市花木の椿の葉からの抽出物が骨粗しょう症に効果があると判明したことから、平成 28 年度から継続して、抽出物を用いたお茶の開発の研究を進め、更に、平成 29 年度からは新たに市の特産品であるヤーコンの研究を学官連携により行っております。

「施策 1-1 次代を担う産業の創出」の評価

平成 29 年度の取り組みに伴う施策の評価ではありますが、総合戦略では、基本戦略や施策ごとの推進状況を検証するために重要業績評価指標（KPI）を設定しております。

「いしかわ大学連携インキュベータ（i-BIRD）入居企業のうち当市支援企業数」ですが、基準値が 10 件に対して、目標値を 12 件としており、平成 29 年度の実績値が 6 件でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。

「産学連携事業支援件数」ですが、基準値が 0 件に対して、目標値を 5 件としており、平成 29 年度の実績値は、市内の大学に対し、支援制度である「野々市市産学連携スタートアップ事業補助金交付制度」について説明を行い、利用促進を図った結果、2 件でありましたことから、評価を「おおむね順調」としております。

「本社機能、研究機関の移転数」ではありますが、目標値を 1 件としており、平成 29 年度の実績値が 0 件でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。なお、平成 29 年 1 月に企業立地促進条例を施行し、その内容を、市ホームページへの掲載等を通じて、関係団体へ周知を行っております。企業立地のための新たな制度を創設したことで、企業が進出しやすい環境となったのではないかと考えております。また、石川県と連携して企業訪問を行い、成長産業をはじめとする企業の誘致に努めているところであります。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、右側の緑色の部分ですが、**施策 1-1 の評価を「やや遅れている」として**おります。

「施策 1-2 地域産業の再生と強化」の評価

「野々市ブランド品開発支援件数」ではありますが、目標値を 1 品目としており、平成 29 年度の実績値が 2 品目でありますことから、評価を「おおむね順調」としております。今後も野々市ブランドになりうる商品づくりの開発支援に努めてまいります。

「滞在人口」ではありますが、基準値が平日 36,204 人、休日 43,319 人に対して、目標値を平日 39,000 人、休日 48,000 人としており、平成 29 年度の実績値が平日 36,899 人、休日 45,601 人でありますことから、評価を「おおむね順調」としております。今後も、平成 29 年 11 月に開館

した「学びの杜ののいちカレード」や、平成 31 年 4 月開館の「にぎわいの里ののいちカミーノ」などにより、更なる賑わい創出の期待がされているところであります。

「**第二創業支援件数**」ですが、目標値を 5 件としており、平成 29 年度の実績値が 0 件でありますことから、評価を「**やや遅れている**」としております。なお、野々市市創業支援ネットワークの会議での意見を踏まえまして、平成 30 年 4 月から創業・第二創業の新たな支援策をスタートさせました。支援内容は、創業・第二創業を行う方を対象に広報活動に対して補助を行う「**創業者支援事業補助金（広報活動支援事業）**」であります。当補助金での支援も含め、野々市市創業支援ネットワークにおきまして、第二創業を促進する支援策を検討してまいります。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、**施策 1－2 の評価を「やや遅れている」と評価**しております。

「基本戦略 1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～」の評価

重要業績評価指標（K P I）の評価であります。が、「**企業数**」「**従業者数**」「**付加価値額**」は、経済センサス活動調査の結果を用いて評価を行います。これは、5 年ごとの調査であり、平成 28 年度に実施した調査の結果を反映しておりませんので、「**評価ができていない**」ものであります。

平成 30 年度中には平成 28 年度実施の結果が公表されることになると思われますので、来年度の会議で数値をお示しすることができるものと思っております。

「**基本戦略 1 しごとを創る～野々市らしい産業の創出～**」の総合評価といたしましては、それぞれの施策の評価から「**やや遅れている**」と評価しております。

【基本戦略 2 ひとの流れを創る】平成 29 年度の主な取り組み

「**幼児発達相談事業**」であります。が、言葉の遅れなど、発達面において不安のある幼児の保護者や相談希望者などに対して、専門家による状況の正確な把握や幼児への関わり方などについて適切なアドバイスを行うことにより、疾病等の早期発見や保護者の不安解消を図るものであります。平成 29 年度の専門家による個別相談は、126 回開催し、述べ 149 人が参加されております。青年期、成人期の相談も対応しており、全体として相談対応件数は増加しております。

「**プレパパママクラス**」であります。が、妊娠、出産、育児についての正しい知識の普及及び不安の軽減を図るため、赤ちゃんの抱っこ体験等を通じて子どものいる生活のイメージを高めて、父親の育児参加を促すものであります。参加者の増加をめざし、初めて土曜日の開催といたしましたが、参加者が想定ほどは伸びず、より参加しやすい実施方法を工

夫して、参加者の増加をめざしてまいります。

「**老人クラブの加入促進事業**」であります。老人クラブへの加入者は、本市を含め全国的に減少しています。高齢者が自らの経験と知識を生かし、社会参加や活動機会を充実させることで、生きがいのある暮らしを実現していくことが求められることから、老人クラブの活動内容の紹介や加入等に関する周知を行い会員数の増加を図っています。活動及び活動PRの一環として、野々市市老人クラブ連合会が中心となって推進している「STAND UP 301」が挙げられます。これは、30分に1回は立ち上がることで血流や代謝の悪化を防ぐ運動でありまして、マスメディアに取り上げられるなど、注目を集めております。

「**椿荘の活用（いきいき塾）**」であります。高齢者が健康でいきいきといつまでも暮らしていくために、生きがいづくりや地域貢献への意識向上の機会を設けております。高齢者が自主的に活動できる地域貢献活動のグループは、詩吟、大正琴、体操など4つのグループがあり、施設などへの慰問活動を通じて、知識や経験を生かした地域での活動を行っていただいております。

「施策2-1 多様な働き方の確立」の評価

「**ワーク・ライフ・バランス登録企業数**」であります。基準値が8社に対して、目標値を10社としており、平成29年度の実績値が13社でありますことから、評価を「順調」としてしております。継続して国や県などの各機関が発行、実施する取組内容事例集やセミナーなどでワークライフバランスについて周知を図ってまいります。

「**女性の就業率**」であります。基準値が53.2%に対して、目標値を54.0%としており、平成29年度の実績値が54.7%でありますことから、評価を「順調」としてしております。新たな創業者の掘り起しを行う「創業セミナー」において、会場内に臨時保育室を開設いたしました。子育てする女性が参加しやすい環境を整備することで、更なる女性の就業率の向上を図っております。

「**高齢者の就業率**」であります。基準値が19.2%に対して、目標値を20.0%としており、平成29年度の実績値が24.6%でありますことから、評価を「順調」としてしております。高齢者の就業につきましては、継続して県内の公共職業訓練施設及び職業訓練施設において職業訓練を受けられた方への助成制度やセミナーなどの広報活動に取り組んでまいります。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成29年度の取り組みの評価である各事業の評価から、**施策2-1の評価を「おおむね順調」と評価**しております。

「施策2-2 野々市らしい暮らしの実現」の評価

「子育て支援センター年間利用者数」であります。基準値が 37,258 人に対して、目標値を 42,000 人としております。平成 29 年度の実績値は 29,992 人であり、評価を「やや遅れている」としてあります。未満児保育の充実や放課後児童クラブの整備を計画的に進めていることなどもあり、子育て環境は向上しておりますが、今後も、各種事業を充実することにより、利用者の増加を図ってまいります。

「若年者雇用促進事業新規雇用者数」であります。目標値を 25 人の就業としており、平成 29 年度の実績値が 0 人、述べ 3 人であり、評価を「遅れている」としてあります。これは、若年者の就業の促進を図るために、国が実施しているトライアル雇用事業を活用して、市内に居住する若年者を引き続き常時雇用した事業主に対し、奨励金を交付するものであります。この奨励金を活用する企業は少ないものの、新しい商業施設の進出が進んでいるため、若年者雇用による定住促進に期待ができるものでありますので、周知を図ってまいりたいと思っております。

「大学生の県内就職率」であります。目標値を 10% 向上としておりますが、金沢大学を主とする地（知）の拠点大学による地方創生推進事業(COC+)をいしかわ学生定着推進協議会が推進しているものの、平成 29 年度の結果が未公開のため、「評価ができていない」ものです。いしかわ学生定着推進協議会における平成 29 年度の取り組みといたしまして、地域を深く理解し主体的に地域資源の創出や課題解決を考えるアクティブラーニングを融合した「地域思考型教育」の実施や地域の人と一緒にいしかわの未来を考え行動することを中心に据えている「いしかわ共創インターンシップ」、国内最大級規模の「いしかわインターンシップフェス」などを実施しております。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 2-2 の評価を「遅れている」と評価しております。

「基本戦略 2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」の評価

「自然増減数」であります。目標値を 800 人増としており、平成 29 年度の実績値が 977 人増であったことから、評価を「順調」としてあります。また、「社会増減数」であります。目標値を 1,500 人増としており、平成 29 年度の実績値が 16 人減でありますので、評価を「やや遅れている」としてあります。内訳といたしましては、平成 27 年度が 165 人の減、平成 28 年度が 45 人の減、平成 29 年度は 194 人の増であります。平成 27 年度と平成 28 年度は減少していますが、平成 29 年度は増加に転じていること、近年でも、800 人、900 人増加という年度もありましたので、一時的な減少と捉えており、今後、区画整理事業による良好な住環境が

整うことにより、増加傾向になるものと捉えております。なお、野々市市の自然増減、社会増減からなる人口増減は、依然として、増加傾向を維持しております。

次に「合計特殊出生率」であります。基準値が1.69に対して、目標値を1.70としており、平成29年度の実績値が1.69でありますことから、評価を「おおむね順調」としてしております。不妊治療費助成、プレパパママクラス、乳児全戸訪問や産後安心ヘルパー派遣事業等を通して、妊娠から出産・子育てまでの連続的な支援を実施し、子育てしやすい環境づくりの充実に努めているところであります。なお、新たな合計特殊出生率は、人口動態保健所・市町村別統計により平成31年3月に公表の見込みでありまして、独自の試算をしたところ、1.69よりも良くなるものと見込んでおります。

「基本戦略2 ひとの流れを創る～安心して暮らせる環境づくり～」の総合評価といたしましては、重要業績評価指標（KPI）の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「やや遅れている」と評価しております。

【基本戦略3 “まち”と”ひと”のつながりを創る】であります、平成29年度の主な取り組み

4 ページ目をお開きください。

「野々市ふるさと交流会の充実」ですが、首都圏や近畿圏在住の野々市市出身者や縁のある方や企業関係者との交流を通じて、「野々市ふるさと交流会」の組織強化に取り組み、市の観光誘致や人材誘致、企業誘致に協力してもらうことをめざすものであります。平成29年11月には、首都圏での交流会「ふるさと交流会 in 東京」を開催し、99名の方に参加をいただきました。また、平成29年度には、近畿圏での交流会開催に向けて関係機関・団体と協議を行っております。その結果、近畿圏での交流会「ふるさと交流会 in 大阪」を平成30年9月に開催し、64名の方に参加をいただきました。

「広域的な公共交通網の強化と地域公共交通の維持・確保」ですが、市民の移動は、市町の境界に縛られてはいないため、市内のコミュニティバスのサービスを維持するとともに、他の公共交通機関との連携を強化して、移動に対する利便性を高めるものであります。平成29年度は、「学びの杜のいちカレード」の開館に合わせ、コミュニティバス「のっティ」のルートを改正しております。また、コミュニティバス「のっティ」の利用促進のため、夏季限定で市内在住の小学生を対象とする乗継券を発行いたしました。小学生対象の乗継券の利用方法が理解されにくいという課題が残りましたので、平成30年度は夏季限定の小学生対象無料券に改善をいたしましてお配りしております。

「地域防災リーダー育成・活動支援事業」ですが、地域の防災力を高めるためにリーダーを育成することが必要でありますことから、

地域防災リーダーである「防災士」を増やし、スキルアップを支援するものであります。防災士の資格取得に要する費用の助成を行うとともに、地域防災リーダーを対象としたスキルアップ研修を実施することで、防災士の中核となって活躍するリーダーの育成に努めてまいります。

「石川中央都市圏連携推進事業」であります。野々市市は、4市2町で形成する石川中央都市圏の各市町と密接なつながりがあり、今後もさらに連携を強化し、石川中央都市圏ビジョンに基づき、連携事業を進めてまいります。平成29年度は、15事業を連携して取り組んでおります。各分野での具体的取り組みが始まって2年が経過し、「金沢広域急病センター」の整備の完了や、協定に基づく公立図書館の相互利用の促進等、各分野での連携事業が着々と推進されています。

「施策3-1 生活基盤の維持と発展」の評価

5ページをお開きください。

「コミュニティバス利用者数」であります。基準値が年198,934人に対して、目標値を年200,000人としており、平成29年度の実績値が年207,026人でありましたことから、評価を「順調」としてしております。「学びの杜ののいちカレード」の開館に応じたルート改正への取り組みや、公共交通利用促進のための総合時刻表の作成を行っておりますことから、利用者が増加しているものであります。

「新規土地区画整理事業の認可」であります。目標値を平成27年度認可としており、平成27年度に認可済みでありますので、評価を「順調」としてしております。平成27年度において、新規土地区画整理事業（中林地区、西部中央地区）の認可がなされております。

「公共施設等総合管理計画の策定」であります。目標値を平成28年度策定としており、平成28年度に策定しておりますが、既存ストック（公共施設）のマネジメント強化という視点から、公共施設等マネジメント会議を通じて全庁的な今後の施設整備・管理について議論を行い、個別施設計画の策定に向けて取り組んでいるところでありますことから、評価を「おおむね順調」としてしております。

重要業績評価指標（KPI）の評価と平成29年度の取り組みの評価である各事業の評価から、**施策3-1**を「おおむね順調」と評価しております。

「施策3-2 安心な暮らしの確保」の評価

「地域包括ケアシステムを構築するための拠点数」であります。基準値が0箇所に対して、目標値を4箇所としており、平成29年度の実績値が4箇所でありますことから、評価を「順調」としてしております。いつまでも住み慣れた地域で、暮らすことができるよう、地区包括支援センターと市が連携して、高齢者の各種相談に対応してまいります。

「介護保険新規申請者の平均年齢」であります。基準値が 81.7 歳に対して、目標値を 82.0 歳以上としており、平成 29 年度の実績値が 80.5 歳でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。年度によって多少の変動はあるものの、おおむね 80 歳前後の状況であることから、今後とも、介護予防事業を充実し、健康寿命の延伸を図りたいと考えております。

「消防団員定数」であります。基準値が 120 人に対して、目標値を 130 人としており、平成 29 年度の実績値が 120 人であります。消防団員の定数には変更はございませんが、団員数は平成 28 年度が 110 人でありましたが、平成 29 年度は 118 人に増えておりますことから、評価を「おおむね順調」としてしております。消防団員は定数に達してはいないものの、消防団員の確保のため、じょんからまつりや大学の文化祭等で活動を紹介するなどの広報活動の実施を行うとともに、消防団員の福利厚生のため、消防団協力の店制度を導入しております。また、後ほど説明させていただきますが、地方創生の交付金を活用して、消防団員数の増加に努めているところでもあります。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価である各事業の評価から、施策 3-2 の評価を「やや遅れている」と評価しております。

「施策 3-3 ふるさとづくりの推進」の評価

「野々市市に誇りや愛着を持つ市民の割合」であります。基準値が 75.8% に対して、目標値を 80% としておりますが、市民アンケートを実施しておりませんので、評価ができていないものであります。今後、次期総合計画策定に向け市民アンケートを実施し数値を把握してまいりたいと思っております。

「野々市会の会員数」であります。基準値が 65 人に対して、目標値を 90 人としており、平成 29 年度の実績値が 72 人でありますことから、評価を「やや遅れている」としてしております。会員同士のネットワークを活かし、若い世代を中心に未加入者への呼びかけを行い、会員の拡大を図ってまいります。また、毎年開催している「ふるさと交流会 in 東京」への参加者は増えており、新規会員増や首都圏でのコミュニティの強化が期待できることもあり、また近畿圏での交流会「ふるさと交流会 in 大阪」の開催により、新規会員数の増加が見込めるものと思っております。

「魅力ある学校づくり懇話会の設立」であります。目標値を 5 小学校区としており、平成 29 年度の実績値は 0 小学校区であります。県内の大学教員等と連絡を取り合い、大学生を学習支援学生ボランティアとして登録し、小学校の授業の中で学習支援をしていただいています。また、地域の大学と連携して子どもたちの体力向上に取り組む学校も出て

きておりますことから、評価を「おおむね順調」としているところであり
ます。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価で
ある各事業の評価から、**施策 3－3**の評価を「やや遅れている」と評価
しております。

「施策 3－4 石川中央都市圏の発展」の評価

「**石川中央都市圏における連携事業数**」であります。基準値が 22 事
業に対して、目標値を 30 事業としており、平成 29 年度の実績値が 15 事
業であります。「金沢広域急病センター」の整備の完了や、協定に基づ
く公立図書館の相互利用の促進等、各分野で連携事業が着々と推進され
ていますことから、評価を「順調」としております。平成 29 年度からは、
災害対策の一環で、り災証明交付体制整備連絡会が新たに設置されてお
ります。平成 30 年度以降も順次、より具体的な取り組みが促進されるも
のと思っております。

重要業績評価指標（K P I）の評価と平成 29 年度の取り組みの評価で
ある各事業の評価から、**施策 3－4**の評価を「順調」と評価してしま
す。

「基本戦略 3 “まち”と”ひと”のつながりを創る～地域・広域連 携によるまちの基盤充実～」の評価

「**地域交流・地域支え合いの拠点の形成数**」であります。基準値が
25 箇所に対して、目標値を 45 箇所としており、平成 29 年度の実績値が
36 箇所でありますことから、評価を「やや遅れている」としております。
新たな地域の交流拠点等が形成されるよう、情報提供を行うとともに、
新規の地域サロンやコミュニティカフェの立ち上げに対して支援を進め
てまいります。

「**自主防災組織結成率**」であります。基準値が 74%に対して、目標
値を 90%としており、平成 29 年度の実績値が 94.44%でありますことか
ら、評価を「順調」としております。54 町内会中、51 町内会において、
自主防災組織が結成されております。災害時において、市民の皆様の意
識として、自分の命は自分で守る「自助」、自分たちの地域は自分たちで
守る「共助」との考え方が浸透してきているものと感じているところ
です。

「**石川中央都市圏ビジョンの策定**」であります。目標値を平成 27 年
度策定としており、平成 27 年度に策定しておりますので、評価を「順調」
としております。石川中央都市圏ビジョンに基づき、圏域の市町と連携
事業を実施してまいります。

「基本戦略 3 “まち”と”ひと”のつながりを創る～地域・広域連

	<p>携によるまちの基盤充実～」の総合評価といたしましては、重要業績評価指標（K P I）の評価とそれぞれの施策の評価から行い、「おおむね順調」と評価しております。</p> <p>ここまで、基本戦略1から基本戦略3までの施策及び戦略の評価を説明させていただきました。「順調」「おおむね順調」のものにつきましては、評価を継続させる取り組みを、「やや遅れている」「遅れている」のものについては、評価を巻き返す取り組みを行ってまいります。「資料1ののいち創生総合戦略の概要及び推進状況について」の説明は以上であります。</p>
石川会長	<p>ありがとうございます。ただ今の、御説明につきまして、委員の皆様から御意見や御質問などはございませんか。</p>
藤田委員	<p>ののいち創生総合戦略を策定された際には、子育てに重点を置いていたと思いますが、数年が経ち、その子どもさんが成長し、学習する環境が増えてきていると感じているところです。私どもの町内会においても、今年度、金沢工業大学の学生さんとの絆プロジェクト（地域プロジェクトデザイン事業）を進め、ヤーコンをテーマに子どもたちと大学生とのコミュニケーションというか、大人が介在をあまりしないで連携をとるようにしていますが、子どもたちは大学生の言うことを素直に聞いています。大学生も、学校では学生という立場ですが、小学生に対しては教師まではいかなくとも、自分たちが教える側というスタイルを築いて、こういう地域づくりを全体に進めたいと思います。子どもたちが学習をする場を設けることが、親御さんの安心につながると考えております。</p>
杉本氏	<p>また、地域や町内会の担い手はとにかく少なくなっています。担い手としては女性が多くなっていますが、そういう地域づくりは、担い手のバランス感に課題があると感じます。</p> <p>本来ならば杖村専務が参加すべきところですが、所要のため、代わりに参加させていただきます。私は今の部署に来る前に、北國銀行野々市支店の副支店長をしており、非常に野々市市に対する思い入れが強く、たくさんお話させていただきたいと思います。</p>

私は、専務の代わりに色々な自治体様の総合戦略会議に参加させていただく機会があるのですが、能登地方に行かせていただくと人口減少が激しく、2060年の人口目標を半分に設定しているような自治体もございます。そういうことを考えますと、野々市市は人口も減っていないですし、住みよさランキングも上位にランクしているということで、非常に恵まれていると感じます。ただそれに甘んじることなく、取り組みを進めていただいているので、ありがたいと思いますし、引き続き積極的に様々な取り組みを進めていただきたいと思います。

私も総合戦略を読んできましたが、創業支援につきまして非常にたくさんさんの取り組みを進められていることかと思います。当行も専門チームを置いており、連携させていただいているところもあると思います。私どものチームも2年間で約300件の支援をさせていただいており、中には野々市市内の案件もございますが、美容院や飲食店などお店関係が多く、ベンチャー系企業も視野に入れていたのですが、どちらかというところ、そういうものは少ないです。そういった面では、本来の創業支援にはなっていないかもしれないですが、野々市市は環境も良く今後も創業の案件があるかと思うので、引き続き金融機関等と連携して進めていただきたいと思います。

あわせて、創業支援と同時に、国でも事業承継が重要な課題となっております。高齢化社会でもありますし、事業の引継ぎという面に課題があると感じます。私は、地方銀行の地方創生部会というものに参加しているのですが、経済産業省の方もたまにおいでで、今後経済産業省でも事業承継への取り組みを集中的に進めていくとおっしゃっていました。こちら自治体様としては見過ごせないところではないかと思うので、積極的に対応をお願いしたいと思います。

また、基本戦略2に関連しまして、こちらも地方創生部会で伺った話ですが、移住定住への取り組みということで、まち・ひと・しごと創生本部が各都道府県に依頼し、移住用のマッチングサイトを作成すると言われていました。野々市市のKPIに対する実績値を見て驚いたのは、自然増は大きいのに対して、社会減になっているということで、移住者への取り組みを進めていただければと思いました。また、社会減ということは、どんな方がどんな風にどこに出て行っているのかを少し分析する必要があるのかと思いました。

<p style="text-align: center;">事務局 (荒木企画課長)</p>	<p>続いて、基本戦略3に関連しまして、公共施設の管理計画ですが、PPP/PFIは野々市市が県内で一番進んでいるものと思いますが、他の自治体様でも検討を始めているところもございますので、引き続き積極的に取り組んでいただきたいと思います。</p> <p>最後に、まちづくりということで、2020年の東京オリンピックに向けて、国も積極的にキャッシュレスに取り組んでおります。当行も非常に力を入れております。インバウンドで外国の方もいらしていますので、野々市市もキャッシュレスを進めていただければと思います。国が本気になって力を入れてきておりますので、その辺も期待したいと思います。</p> <p>思いが強いので、たくさん発言させていただきましたが、以上でございます。</p> <p>貴重な御意見をありがとうございます。創業支援につきまして、金融機関との連携を、これまで以上に積極的に進めていきたいと思っております。ぜひ、私どもにない知恵を授けていただきたいと思います。</p> <p>事業承継につきましては、全国的にも言われておりますし、農業と同じような構図なのかもしれませんが、次の代へ引き継ぐことがなかなか難しいことと承知しております。担当課も十分に承知はしておりますので、金融機関等との連携を深めて、対応できるところを検討していきたいと思っております。</p> <p>社会減の理由につきましては分析を進めておりますが、正直なところ、今のところ原因は掴みきれれておりません。昨年のこの会議でも御指摘を頂いたのですが、おそらく近隣の自治体への工場の移転等が影響しているのではないかと考えているのですが、それが直接原因かは掴みきれれておりません。ただし平成29年度は社会増へ逆転しておりますので、もう少し様子を見てもよろしいのかなと感じているところです。</p> <p>PPP/PFIについては、石川県内で野々市市にスピーカーになってほしいと内閣府からも言っていております。それほどのことができるかはわかりませんが、官民連携を進め当市にできることを積極的に推進してまいります。</p> <p>いわゆるキャッシュレスも、近年ですといわゆるフィンテックというのでしょうか、技術も進んでいるというのは、私どもも存じあげており</p>
---	---

<p>絹川委員</p>	<p>ます。当市でどれくらいのことのできるのかということはありませんが、事例なども教えて頂き、今後ともアドバイスなど頂ければと思います。</p> <p>先日、私は子ども・子育て会議に参加させていただき、少し意見を頂戴しました。3頁にあるように、自然増は大きく目標を達成しており、生まれる方が亡くなる方より多いということと理解しています。さらに女性の就業率も高く、今後も保育への需要は高まると感じます。一方、法人の保育関係者は「人口は増加しても、その後減少するだろう」という意見でした。市としては今後の人口の推移をどのように想定しているでしょうか。</p>
<p>事務局 (荒木企画課長)</p>	<p>今後の人口の増加をみますと、計画にございますように今のままの出生率や移動率を鑑みると、20年後にも6万人を少し増えるくらいの人口になるのではないかと推計しております。ただし日本全国で人口減少や高齢化が進んでいる中で、このまま推計どおりに行くかということ、推計と現実には乖離もございますので、なかなかその通りには進まないだろうと思います。市の総合計画では、33年度の目標人口を58,000人と設定しております。まずは皆様が安全安心、快適に過ごし、人口も58,000人になるように様々な施策を進めております。</p>
<p>絹川委員</p>	<p>確かに人口が増えるのは、活力があるということで良いことと思うのですが、子ども・子育て会議においては、法人の保育関係者は「いつまで人口が増えるかわからないので、施設の増設はしない」という意見が出ておりました。市としては、施設の拡充等は考えておいでるのかをお聞きしたいです。</p>
<p>小川健康福祉部長</p>	<p>先日の子ども・子育て会議には私も参加しまして、人口が増加するというのは皆の共通の認識ですが、子どもさんだけを見ると、そこまで増加しないという予測となっております。それを踏まえると、「施設の増加はこれ以上必要ない」というのが、法人の保育関係者の意見であったかと思っております。また、女性の就業率が上がることで保育に関するニーズが高くなることも考えられますので、子育て支援センターの利用者数が就業率と相反して減っていくのは必然的かと思っております。</p>

<p>石川会長</p>	<p>それでは報告事項については以上といたします。</p> <p>議事の協議に移ります。議事1番の、「地方創生関連交付金等（平成29年度）の効果検証について」事務局より説明をお願いします。</p> <p>事務局から説明されます評価の内容を御確認いただいた上で、最後に委員の皆様から「ののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であったかどうか」の評価を頂きたいと思います。</p>
<p>事務局 (説明)</p>	<p>野々市市の創生を実現するために、地方創生関連の交付金等を活用して事業を実施しております。効果検証にあたり、実施状況に関する客観的な指標の重要業績評価指標（KPI）を事業毎に設定しております。その達成状況について、外部有識者であります野々市市創生総合戦略推進委員の皆様にご効果の検証をしていただくこととされています。</p> <p>効果検証をしていただく事業は4件ございます。平成29年度に地方創生推進交付金を活用した事業につきましては、資料2-1から資料2-3の3件ございます。地方創生推進交付金は、「地方版総合戦略」に位置付けられ、地域再生法に基づく地域再生計画に認定される地方公共団体の自主的・自律的な取り組みで先導的なものを支援するため措置されるものです。</p> <p>資料2-4につきましては、地方創生応援税制いわゆる企業版ふるさと納税の制度を活用した事業であります。国が認定する地方公共団体の地方創生事業に対し、企業が寄附を行うと、最大で寄附額の約6割相当額が法人関係税で軽減される制度を活用した事業であります。</p> <p><u>「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業</u></p> <p>資料2-1をお開きください。</p> <p>今回、野々市市創生総合戦略推進委員の皆様にご評価をいただくところは、全事業において、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」という部分となります。</p> <p>こちらの交付金は、野々市市単独で交付金の申請を行ったものであります。地方創生の深化のすそ野を広げる取組である横展開タイプの事業を、平成28年8月の地域再生計画の認定から平成31年3月までの3ヶ年度で実施してまいります。地域再生計画上の事業総額は67,000千円でありまして、平成29年度の事業費の15,118千円のうち、対象事業額の1/2にあたる6,957千円の交付金を受け入れております。事業の概要といたしましては、地域の安全向上の核となる新たな組織の設立に向け、拠点避難所の環境整備をはじめPR活動など、防災情報の啓発や防災力向上に関する事業を実施するものです。また、高齢者の日常の助け合いを</p>

充実するとともに、地域の課題を自分たちで解決していく仕組みづくりに取り組むことで、新たな地域コミュニティの構築や地域の活性化を図るものであります。

実施内容といたしまして、「外国人向け野々市市防災情報啓発事業」ですが、市内在住の外国人に避難所等の情報を周知するため、英語を含む9か国語の「野々市市外国人向け災害パンフレット」を作成いたしました。作成にあたり、市内在住外国人から災害が起きた場合の疑問点や質問点などを伺い、災害時に持ち運びができるものいたしました。「拠点避難所防災力向上事業」ですが、総合防災訓練において、市民と関係機関が意見交換することで、各避難所に設置する防災用資器材を取り決めるなど、市民への防災意識を高めるものであります。平成29年度につきましては、総合防災訓練の一環である非常参集訓練を8月に実施し、一時的避難場所に参集した市民の方は4,842人、職員は282人が参加しております。訓練においては、マンホールトイレの設置訓練などを実施しております。また、各拠点避難所の防災用備蓄品として、アルファ米、とん汁、組立トイレなどを購入しております。

「地域包括ケアシステム基盤整備事業」ですが、高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らすことができるように、高齢者の日常生活課題を把握し、市民が主体となって解決するという意識を醸成するための事業であります。平成29年度につきましては、高齢者を取り巻く生活課題を把握し、「住まい」「介護」「運動」「食」の課題の解決を実践してまいりました。「住まい」は、テーマを不動産、町内会、高齢者の連携サイクルといたしまして、地域や地元の不動産管理会社と連携し、アパートを中心とした入居高齢者の「暮らしの困りごと」を解決する仕組みづくりをめざすものであり、平成29年度は2つの町内会において、入居高齢者の所に訪問し、困りごとなどの相談を受けております。「介護」は、介護のやりがいや楽しさを学生や介護職の方に理解してもらい、介護の魅力を発信することで、介護職の離職率を軽減させるために「ののいち介護ラボ」を開催しております。「運動」は、テーマをSTAND UP 301宣言といたしまして、1日に座る時間が長くなると、狭心症や脳梗塞などのリスクも高くなるという研究結果があることから、30分に1度立つという日常動作に着目し、「STAND UP 301宣言」を実施するものです。「食」は、高齢者がコンビニの食品に対して、体に悪いなど良いイメージがなく、馴染みがないのではとの疑問から、栄養面やコンビニの便利さを伝えるために、コンビニ栄養学講座、コンビニ活用講座を開催いたしました。

次に、交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）と実績値であります。KPI①の「自主防災組織が行う防災訓練の開催割合」の平成29年度の達成率は113.6%、KPI②の「消防団員数」の平成29年度の達成率は97.5%、KPI③の「地域包括ケアシステム構築に携わる活動団

体数」の平成 29 年度の達成率は 116.7%でありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に相当程度効果的であった」としているところであります。

実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、万が一の発災時において、地域防災力を発揮できない状況にあることから、今後も事業を継続すべきであるとしているところであります。

こういった取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略の K P I 達成に有効であった」と判断しているところであります。

「百万石の伝統を活かした文化・観光プロジェクト」

続きまして、資料 2-2 をお開きください。

こちらの交付金は石川県が中心となり申請を行っている、県内全 19 市町が対象の県広域連携の事業であります。平成 28 年度は、「観光地域づくりに向けた石川版 DMO 形成推進事業」の名称で行っておりました事業であります。野々市市の交付金の受入れは 40 万円であり、事業の概要といたしましては、全体で取り組む事業として、石川県と県内全 19 市町と金融機関等が連携して、地域における魅力ある雇用の場の創出や交流人口の拡大を目指すものであります。

野々市市関連の事業としては、小松空港周辺の 7 市町において、旅行商品の造成・販売を支援することで、地域の活性化・地域の魅力に繋げ、あわせて、小松・羽田便の活性化を図るものです。

実施内容といたしましては、航空利用観光誘客促進事業として、市から小松空港協議会に負担金を支払い、小松空港協議会が、小松・羽田便を利用し、宿泊を伴った体験等の旅行商品を造成するものです。旅行パッケージを記載しておりますが、「訪れるべき注目の 7 都市」につきましては、喜多家住宅の見学が旅行パッケージに含まれており、「早春の古都金沢・世界遺産五箇山・白川郷 2 日間」には旧魚住家住宅の見学が旅行パッケージに含まれております。

交付対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値であります。こちら県が設定し、県より実績値を報告いただいておりますが、K P I ①の「石川県内への観光入込客数」の平成 29 年度の達成率は 94.2%、K P I ②の「兼六園周辺文化施設の年間入館者数」の平成 29 年度の達成率は 129.6%、K P I ③の「金沢港へのクルーズ船寄港数」の平成 29 年度の達成率は 183.3%でありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に相当程度効果があった」としているところであります。

実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、更なる地域活性化・地域の魅力向上に繋げることと合わせて、小松空港の利便性を維持するため新たな利用者の確保と現在の利用者の継続した利用を他の市町と連携して図っていく必要があるため、今後も事業を継続すべきであるとして

いるところであります。

こういった取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であった」と判断しているところであります。

「旧北国街道を舞台とした「野々市版コミュニティ・リビング」創出プロジェクト」

続きまして、資料2-3をお開きください。

こちらの交付金は、野々市市単独で交付金の申請を行ったものであります。地方創生の深化のすそ野を広げる取組である横展開タイプの事業を、平成29年11月の地域再生計画の認定から平成32年3月までの3ヶ年度で実施してまいります。地域再生計画上の事業総額は46,430千円でありまして、平成29年度の事業費の3,170千円のうち、対象事業額の1/2にあたる1,585千円の交付金を受け入れております。

事業の概要といたしましては「学びの杜ののいち カレード」や「にぎわいの里ののいち カミーノ」といった新たな拠点施設を北国街道でつなぎ、文化会館フォルテや郷土資料館を含むエリア全体としてまちづくりに取り組むことで、にぎわいを創出して交流人口を増やし、定住人口の増加及び産業の振興につながる本市の創生をめざすものであります。

実施内容といたしまして、「石川県立大学との連携による特産品の開発研究」ですが、市花木の椿の葉からの抽出物を用いたお茶の開発の研究や市の特産品であるヤーコンの研究を学官連携により行っております。

「まち・ひと・にぎわいセミナーの開催」ですが、市の魅力を生かした野々市ブランド化のため、地域づくり・ブランドづくりを実践している方を講師に全3回のセミナーを開催し、176名の方に参加をいただいております。「観光PRポスターの製作」ですが、市を効果的に宣伝するツールとしてポスターを制作いたしました。市内各施設、石川県の東京事務所及び大阪事務所、交流のある市外、県外自治体に配布をしております。「民間商業施設運営体制の検討」ですが、多くの方の交流、地域の活性化のために事業の運営などについてコーディネートを委託しております。民間商業施設の活用、運用の方向性を検討していただいております。

「市民活動支援検討委員会での市民活動センターの活用方策の検討」ですが、市民活動団体の代表者5名、金沢工業大学職員1名、金沢大学准教授1名による検討委員会において、市民活動の方向性に関する意見や団体間の連携について協議、検討していただきました。

次に、交付対象事業の重要業績評価指標（KPI）と実績値であります。KPI①の「休日の滞在人口」の平成29年度の達成率は368.2%、KPI②の「まちづくりを促進するファシリテーター養成講座の受講者が企画した事業数」の平成29年度の達成率は0%、KPI③の「野々市市観光物産協会会員」の平成29年度の達成率は220.0%でありますこと

から、事業の効果といたしまして、「地方創生に効果があった」としているところでもあります。

実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、人材育成の各種講座やエリアを活用したイベントを継続して開催した結果、本事業の認知度とともに期待も高まっており、政策間連携や関係団体との連携を強化しながら目標の達成を目指していくため、今後も事業を継続すべきであるとしているところでもあります。

こういった取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略のK P I達成に有効であった」と判断しているところでもあります。

「賑わい創出による創業マインドの育成計画」

続きまして、資料2-4をお開きください。

こちらは地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る評価となり、事業分野は「企業誘致・起業支援」であります。平成29年3月の地域再生計画の認定から平成32年3月までの3ヶ年度で実施してまいります。地域再生計画上の事業総額は136,042千円でありまして、平成29年度の事業費の18,400千円のうち、14,100千円の寄附をいただいております。

事業の概要といたしましては「学びの杜ののいち カレード」に数多くの創業に関する蔵書の配置や相談会、講座の開催など市内外の創業希望者の集客を見込み、市内外の創業希望者に支援を行います。また、他自治体の図書館との連携により、市外の人を呼び込み、市の魅力を広く伝え、移住・定住につなげるものであり、この内容に賛同いただける企業から寄附を募るものであります。

実施内容といたしまして、「図書の調達冊数」ですが、創業に関する図書としてビジネス支援図書、地域の課題解決に役立つ図書等、平成29年度は7,599冊を調達しております。創業希望者が関連する図書を手に取りやすくするため、創業に関する図書はビジネス支援コーナーに配架し、市内外の創業希望者に御利用いただいております。「子どもの読書推進につながる取り組み」ですが、子どもを対象とした絵本や紙芝居の読み聞かせ等を行う、おはなし会を「学びの杜ののいちカレード」が開館した平成29年11月から平成30年3月において、22回開催し、576名の方々に参加していただいております。「地域の課題に役立つ情報を提供する取り組み」ですが、市民歴史講座には27名の方に、イオン薬局相談会には9名の方に参加いただき、地域の課題に役立つ情報を提供しております。「創業支援事業」ですが、野々市市創業支援ネットワークが主体となって、創業に必要な知識を学び、創業を身近に感じてもらうために創業塾を開催いたしました。また、創業塾の一步手前となる若者向け創業セミナーを開催しております。

次に、対象事業の重要業績評価指標（K P I）と実績値であります。

	<p>K P I ①の「創業知識習得講座参加人数」の平成 29 年度の達成率は 84.0%、K P I ②の「講座参加者のうち創業した人数」の平成 29 年度の達成率は 60.0%、K P I ③の「市立図書館利用者数」の平成 29 年度の達成率は 146.2%、K P I ④の「市外利用登録者数」の平成 29 年度の達成率は 246.0%でありますことから、事業の効果といたしまして、「地方創生に相当程度効果があった」としているところであります。</p> <p>実績値を踏まえた今後の方針といたしまして、創業塾や創業セミナーを開催することで、創業の実現につながっていること、また、同じ志を持った仲間づくりにもつながっておりますことから、次代を担う创业者の掘り起しや育成に取り組んでいくとともに、これまで以上の市民の満足を得られるような図書を選定、催しの開催に努めていくためにも、今後も事業を継続すべきであるとしているところであります。</p> <p>こういった取り組みから、左上の「野々市市創生総合戦略推進委員の評価」となりますが、事務局では、「ののいち創生総合戦略のK P I 達成に有効であった」と判断しているところであります。</p> <p>「資料 2 - 1 から 2 - 4 地方創生関連交付金等の効果検証について」の説明は以上であります。</p> <p>ありがとうございました。ただ今の交付金を活用した事業の評価につきまして、御意見や御質問などはございませんか。</p> <p>私は、立場上よく把握しているものばかりですので、市はよくやっておいでだと思います。ただし、拠点避難所の防災力の向上の中で、アルファ米やとん汁はそろそろ別の商品に変更していただけませんか。様々な新しい防災に関する商品を集めて、研究開発をしたら面白いのではないのでしょうか。学生さんにやっていただいても結構なので、検討していただけませんか。</p> <p>様々な種類の商品が出てきておりますので、商品の紹介も兼ねまして、今後取り入れていきたいと考えております。</p> <p>資料 2 - 2 「百万石の伝統を活かした文化・観光プロジェクト」や資料 2 - 3 「旧北国街道を舞台とした「野々市版コミュニティ・リビング」創出プロジェクト」ということで二つはリンクされることが多々あると思います。北国街道にこれからもっと人を呼ぼうとする場合には、大型</p>
石川会長	
藤田委員	
山口総務部長	
千田委員	

	<p>バスが入るスペースや駐車場の絶対数が、足りないように感じております。また、建物の外観もある程度規制をして、北国街道の街並みに合わせたような資材を使う等、市の方で制限をかけるお考えがあるのでしょうか。当支店が北国街道の傍にあり、おかげさまで、現在建て替えを行っております。郷土資料館や喜多家さん等にあわせた建物を建設中でございます。例えば、新しく家を建てられたり空き家を直される場合に、皆が無秩序に進めてしまいますと、せつかくの北国街道の魅力が損なわれる可能性があるのではないのでしょうか。どのように市の方で踏み込んで施策を進めていかれるのかをお聞きしたいところです。</p>
副市長	<p>北国街道は数少ない当市の観光財産と認識しております。ただし、今おっしゃられたような建物の規制ということになりますと、個人の持ち物に制限をかけることとなってしまいます。まずはできることから、喜多家さんなど、主要なところを整備していきまして、皆様に理解を頂いて、徐々に雰囲気醸成していくことが重要かと思っております。</p> <p>大型バスの整備については、市が用地を買収いたしまして、開発を進めているところでございます。乗用車をはじめ、予約があれば大型バスも駐車場として利用できるよう整備を進めたいと思います。</p>
三沢委員	<p>「自分のまちは自分で守る」地域の絆を活かした地域の安全向上事業」に関しまして、私は賃貸のマンションに住んでいますが、マンションに住んでいる方は隣にどんな方が住んでいるかわかりません。住宅地の地域には幾分、絆がありますが、マンションの住人は少し穴が空いている気がします。例えば今年、豪雪の際に雪かきをしていた際に、マンションの前だけ誰も人が出ていないということがありました。大家さんが表に出ていらっしゃらないので、管理会社に問い合わせを試みましたが、そのような話は聞いていないとおっしゃり、それ以降連絡が来ていません。マンションの住人にも地域との絆を築いてほしいと強制まではできないかもしれませんが、やはり必要最低限のことはやってもらいたいと思います。大家さんに、もっと責任をもってもらいたいと思いますか、そういう指導をしていただくことは無理なのではないでしょうか。</p> <p>もう一つ、道路等の雪かきがされていないこともありましたが、それは野々市市の管轄外なのではないでしょうか。</p>

副市長	<p>野々市市は自然災害の少ないところでして、土砂災害も津波災害もございません。今年の雪は、何十年に一回の豪雪で、市の職員も除雪の業者さんもフル活動しておりましたが、それでも地域に雪が残るほどでございました。対応ということでございますが、今年、市民の方にも委員に入っただいて「30 豪雪を検証する会」という会議を開催し、検討を進めておりますが、最終的には災害の際に行政だけでできることは限りがございます。万が一の災害の際には、市民の方々にもある程度、お力添えをいただきたいと思っております。例えば高齢者の方が豪雪で病院に行けない、薬がないというときには、消防等に連絡も必要ですが、常にそういう危険があるということを経験していただくと、皆で連携して対応することが大切かと思っております。マンションに管理組合があるのかは存じ上げておりませんが、マンションの中でそういった災害に対応する組織を作っただけだと行政としては大変幸いです。</p>
三沢委員	<p>雪の対策につきましては、存じ上げず申し訳ございません。たまたま私の近所に手が回らなかったのだと思っております。管理組合が無いマンションも多く、あっても機能していないこともあると思っております。そういう場合には、大家さんにも責任があると思っておりますが、大家さんは管理会社に委託していると思っております。その場合、少なくとも管理会社が防災の対応をしないとイケないと思っております。私は、マンションがありますと、防災という面では穴が空きやすいのではないかと考えています。</p>
藤田委員	<p>その点ですが、副市長のお話にもありましたが、地域にあります分譲マンションなら、管理組合がそれぞれ管理をされていると思っております。ただし大家さんが物件の管理を持たれたままなら、大家さんの管理下にあると思うのですが、おっしゃるとおり、最近是不動産会社が管理を全て請け負っていることが多いです。管理組合としては、除雪等に大きく費用をかけていたら営業的にやっていけませんので、家賃に対応して、共益費を頂戴していることと思っております。三沢委員がおっしゃる案件につきましては、町内会長も十分に理解していることと思っております。</p> <p>あやめ町内会では補助金を申請し、除雪機を購入いたしました。地域の中で、アパートやマンション、狭小地、高齢者の集まる場所等の除雪道具として活用していきたいと思っております。野々市市の場合、54 町内会</p>

<p>西村委員</p>	<p>の中で、あの町内会がやったのなら、こちらも行おうといくつか手をあげると思っていますので、今しばらくお待ちください。</p> <p>北西部、柳町と地方創生に関わる2地区の土地区画整理が完了しました。現在行っている西部と中林も相当な地方創生の期待ができると思うのですが、住まわれる方、商業をなさる方、農業をなさる方、この方々に向け力を入れて、定住してもらえるような施策を進めてほしいと思います。</p> <p>野々市市は都市化が進み、残るのは上林や末松かと思います。災害の課題も見受けられますので、直接下水につながるような仮設のトイレを整備する施策も進めていただきたいと思います。いずれにしても、面積の小さい野々市市ですから、今進めている2つの地区の整備に、力を入れて行ってほしいと思っております。よろしく申し上げます。</p>
<p>副市長</p>	<p>野々市市は土地区画整理で都市計画を進めており、これまで30以上の区画整理事業を行ってきました。他自治体から当市においでた方には、きれいなまちですねと言われる。また、1区画が大きく、主要道もしっかりしているとも言われます。それは、土地区画整理事業を着実にを行い、それも組合区画整理とあって、地元が主体となって区画整理を進めてきたからです。地元が主体とはいえ、主要道路等は市で整備を行っていますし、補助も基準を決めながら行っています。今回の2つの地区につきましても、組合の方で野々市市の都市計画に基づいて宅地開発を進めていますので、市はそれが適正に推進されるように、歩調をあわせてサポートしております。</p>
<p>三沢委員</p>	<p>「百万石の伝統を活かした文化・観光プロジェクト」に関してですが、観光客は、大きな魅力がないと市にいらしてくださらないと思います。</p> <p>先般の総合計画審議会でも話が出ましたが、金沢市には500人以上入るコンベンションセンターがありません。野々市市は金沢市と近いので、交通の便利なところであれば、かなり良いのではと思います。考えられるのはJRの駅の近くで、野々市市には野々市駅がありますから、市の持ち物として500人くらい集まる施設になれば、石川県で唯一のコンベンションセンターとなります。金沢駅からのアクセスを考えるとかな</p>

り見込みがあるのでしょうか。今すぐには無理でしょうけど頭に入れておいていただければと思います。

もう一つ、大学生に卒業後も県内に残ってもらうということですが、県内企業で学生を採用していただけたらありがたいですが、修士課程まで進んだ学生はなかなか採用してくれないと言いますか、そもそも県内の企業は修士課程まで進んだ学生を募集していないことが多いです。修士課程まで進むと、研究を2年間行うので、答えのないところで考え、答えを見出すという訓練を積んでいます。修士課程まで進んだ学生も採用して頂ければ、学生も石川県に就職したいと思えますし、我々大学にとっても学生に修士まで進んでいただけますし、場合によってはベンチャー起業にもつながるのではと思いますので、よろしくお願いします。

副市長

コンベンションセンターにつきまして、確かに金沢では学会も分散してしまい、一堂に会するところがないと聞いております。現状では、石川中央都市圏の中で、各市町で大きな施設を持つという発想はございません。その後の維持コストがかかってきますので、それに見合ったベネフィットが出てくるかということを考えますと、どこの市町も持つとは言いません。ただし、石川中央都市圏で様々な事業を進めておりますので、その枠の中で考えて、コンベンションセンターが必要で、それが野々市駅の近くが良いと全市町が賛成すれば、検討を行うことになろうかと思えます。例えば、金沢広域急病センターができ、成功した例もありますので、そういった圏域での対応が必要なのではないかと思います。

大学生の県内就職については、石川県の方で、県内や県外にどれだけ学生が就職しているか、データも蓄積していると思えます。県とも協力しながら、まずは石川県に定着していただいて、その中で野々市市にも定着をとという形で進めていきたいと思えます。

石川会長

会議の開始から、2時間を過ぎまして、御意見もかなり出尽くしたと思えます。これまでの御説明及び意見交換等も踏まえまして、本会議をもちましてこれらの交付金がののいち創生総合戦略のKPI達成に有効であったと結論づけたいと思えますが、皆様よろしいでしょうか。

(異議なし)

<p>石川会長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>これで、今回の報告及び議事は全て終了しました。</p> <p>最後に、その他といたしまして、委員の皆様から何か御意見はございますでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">(意見なし)</p> <p>それでは会長として、一言述べさせていただきます。先ほど栗市長の方からお話がありましたが、総合戦略の推進期間は平成 31 年度までということで、あと 1 年しかないということであります。ぜひとも平成 31 年度には、「遅れている」「やや遅れている」という領域をなくすように御努力をいただきたいと思います。よろしく願いいたします。</p> <p>それでは本日の会議を終了といたします。ありがとうございました。</p>
<p>司会 (荒木企画課長)</p>	<p>本日は、長時間にわたりまして、誠にありがとうございました。</p> <p>皆様から頂戴した御意見や御提言を参考にいたしまして、「遅れている」「やや遅れている」という領域を少しでも無くすよう努めてまいりますので、今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p> <p>最後に、閉会にあたりまして、副市長の常田より御挨拶を申し上げます。</p>
<p>副市長 (閉会のあいさつ)</p>	<p>委員の皆様、長時間にわたりまして、熱心な御議論をいただきありがとうございました。また、地方創生関連交付金について、効果があったとの評価をいただき、ありがとうございました。今ほど、会長さんにおっしゃっていただいたように、あと 1 年ございますので、評価が「順調」「おおむね順調」となりますよう様々に頑張ってくださいますので、変わらぬ御支援御協力を賜りますよう、お願い申し上げまして、御挨拶にかえさせていただきます。本日は誠にありがとうございました。</p>
<p>司会 (荒木企画課長)</p>	<p>以上をもちまして、平成 30 年度野々市市創生総合戦略推進会議を終わらせていただきます。ありがとうございました。</p>